



本ばこ

ほん

—新刊教材・図書紹介—

しん かん きょう ざい と しょ しょう かい

教科書が変わると、教師が変わる 教師が変わると学習者が変わる

『できる日本語 初級 本冊』

にほんご しょきゅうほん さつ

著者：できる日本語教材開発プロジェクト 出版社：アルク

ちよしゃ にほんごきょうざいかいはつ しゃっほんしゃ

URL：http://www.alc.co.jp/ 発行年月：2011年4月

ほつこうねんげつ ねん がつ

ISBN：978-4-7574-1977-3 判型・頁数：B5判、302頁 別冊56頁 CD3枚 定価：3,570円

はんけい ペーじすう ほん ペーじ べいじ まい ていか えん



本教材は、「できる日本語」シリーズの中でも初級レベルを対象に作られた総合日本語教科書です。学習時間150時間で、OPIでは初級一上から中級一下レベルの日本語能力の習得を目指します。課は全部で15あり、1つの課は3つのスモールトピックからできています。課のタイトルは以下のとおりです。

はじめまして／買い物・食事／スケジュール／私の国・町／
休みの日／一緒に！／友達の家で／大切な人／好きなこと／
バスツアー／私の生活／病気・けが／私のおすすめ／
国の習慣／テレビ・雑誌から

ここでは、第2課の「買い物・食事」を例に見ていきましょう。

▽まず日本語で言ってみよう！使ってみよう！

にほんご い つか

第2課の行動目標は、「お店の人や友達と簡単なやりとりをして、買い物をしたり、料理の注文をしたりすることができる」です。そして、スモールトピックと行動目標は、「1. どこですか：自分が買いたい物がどこにあるか聞くことができる。」「2. いくらですか：自分が買いたい物の値段を聞くことができる。」「3. レストラン：レストランで注文することができる。また、忘れ物の持ち主が誰か聞くことができる。」となっています。教師は次のような流れで授業を進めます。

各課は、「話してみよう」「聞いてみよう」で、これから学習するテーマをクラスで共有するところから始まります。ここでは教師は、扉ページにある「話してみよう」のイラストを見ながら、今どんな場面において、そこではどんなことを言え方がいいのか等、学習者の自由な発話を引き出すようにします。そのあと「聞いてみよう」でモデル会話を聞かせます。モデル会話にはこれから学習する表現なども含まれていますが、ここではまだ取り上げません。次に、スモールトピックに移ります。

「チャレンジ！」も同様に、イラストを見ながら場面を想像し、その場面で必要とされる表現を学習者が自由に言ってみる時間を取ります。いろいろなアイデアが出され、十分に動機付けができれば、CDを流し、新しく学習する表現を紹介します。表現や文型を確認したら、「言ってみよう別冊」（本冊付属）で形練習、「言ってみよう」で簡単なやりとりの練習をします。そして「やってみよう」で、聞き取りと話す練習をします。

この流れで3つのスモールトピックを終えたら、課のまとめとなる総合的な活動を行います。2課の「できる！」では、「スーパーへ行って、買い物をしましょう」「それから、お店でご飯を食べましょう」という活動にチャレンジします。最後に、「聞いてみよう」で聞いたモデル会話をもう一度聞き（「もう一度聞こう」）、日本語力の伸びを確認します。

「できる日本語」シリーズは、「対話力」、つまり自分のことを発信したり、相手とやりとりをしたりできる日本語力が身につくことを大切に考えています。本教材には、聞く練習や話す練習がたくさんありますが、15課を通して繰り返し練習することで、無理なく「対話力」がついていくでしょう。

